

社会とキャリア教育

キャリア教育は、勤労観・職業観を育てる教育とも言われ、社会科の内容に深い関わりがあります。また、そのために育てる情報活用能力や意思決定能力も、社会科で育てる力に深く関わります。

勤労観・職業観の基礎を育てる社会科の内容

第3学年及び第4学年の社会科の内容には、「地域の生産や販売」があります。ここでは、畑や工場、お店などで働く人の工夫を取り上げて、どのようにしてよい商品を作ろうとしているか、どのように消費者ニーズを踏まえて売ろうとしているかを調べ、その仕事や地域の人々の生活に役立っていることを学びます。つまり「工夫して働くことが人々の生活に役立つこと」を学んでいるのです。その他にも、「安全を守る人々の働き」や「飲料水を届ける」「ゴミを処理する仕事」「人々の生活を向上させ

た先人の働き」などを取り上げます。これらも生産や販売の仕事と同様に、地域に見られる様々な仕事や働きが、私たちの生活を支えていること、生活を向上させていることを学びます。そしてここでも、「工夫や努力」「苦心」「連携や協力」などの視点を大切にします。つまり、人々が役割意識をもって懸命に働くことによって社会が成り立っていることを理解していくのが社会科の学習内容なのです。この学びは、第5学年の産業に関する学習や第6学年の歴史に関する学習、政治の働きに関する学習などにもつながっていきます。これらは、子どもにとっての勤労観・職業観の基礎を養っていると言ってもよいと思います。

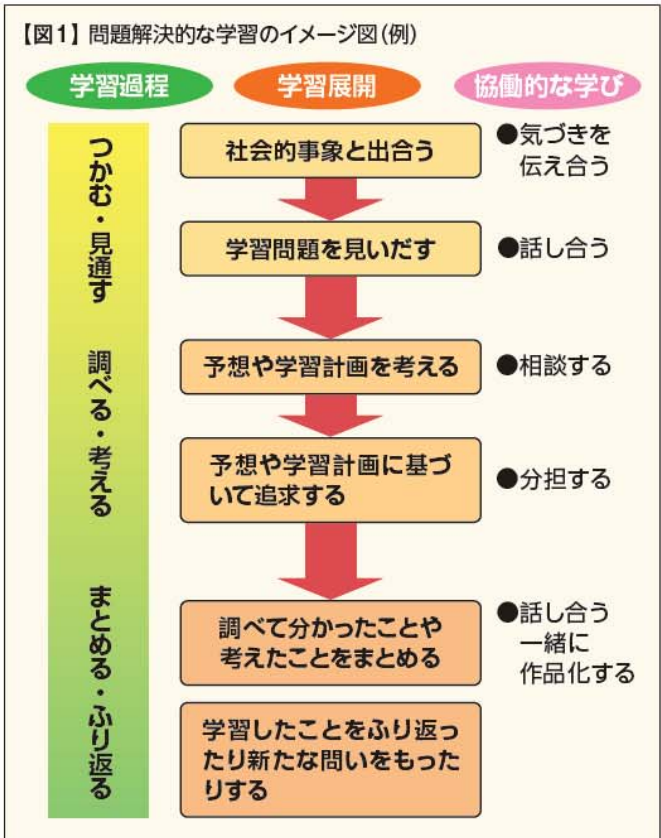
情報活用能力を育てる社会科の授業

社会科では、次ページの図1に示したような問題解決的な学習を重視しています。子どもが自ら調べ考え、学習問題に対する結論をまとめていくようにする学習です。その結論は、頭の中だけで考えて生み出すものではなく、社会的事象(実社会)に見られる物事や出来事を調べることを通してまとめるものです。そこで大切に



澤井 陽介

国立政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部
教育課程調査官
文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官



また、思考力、判断力、表現力については次の三点です。

- ① 情報から問いを見いだしたり、予想をもったりすること
- ② 情報をもとに比較・関連付け、総合などして考えること
- ③ 調べたことや考えたことをもとに、これからよりよい社会やそこへの自分たちの関わり方を選択・判断すること

このように、社会科における情報活用能力の育成は、観察や資料活用

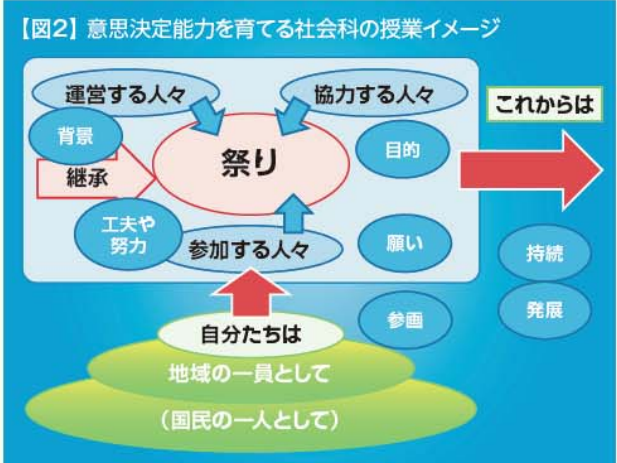
結び付けながら育てていくことにはかなりません。こうした力は、将来に渡って、断片的な情報、限られた情報を鵜呑みにせず、自分の問題意識や目的に沿って情報を集め、比較・吟味など考察して、結論を導き出す力を育てることになります。

このように社会科では、情報活用能力を社会生活における自分や集団の問題解決に使えるようにしていくという意味で、キャリア教育と深い関わりがあると言えます。

意思決定能力を育てる社会科の授業

図1のいちばん下に示した「学習したことをふり返ったり新たな問いをもったりする」ことを大切にすると授業も多く見られます。そうした授業では、子どもが学んだことをふり返り、「○○の問題を解決するためにすべきことは」「○○がもっと発展するために」「私たちが協力できることは」などと、未来に目を向けたり、自分たちの生活や行動に目を向けたりして考える場面が設定されます。

下の図2は、地域の人々が受け継いできた年中行事(祭り)を取り上げて、これからの祭りの継承や発展、自分たちの関わり方を考える授業のイメージです。子どもたちには、独りよがり、自分勝手なアイデアではなく、社会の一員としての考え、人々の相互関係や自分の立場を踏まえた考えを求めます。その過程で、学んだことの中から大切にすべきことを選び出し、自分の生活や行動の在り方を選択・判断したりする力を育てることになります。



これが、意思決定能力を育てるという意味でキャリア教育と深く関わります。また、未来を考える思考は、キャリア教育で求めている「将来設計能力」の育成に、図1の右側に示した様々な場面で考えられる協働的な学びは「人間関係形成能力」の育成に、それぞれ関わっていると考えることもできます。このように社会科は、未来を生きる子どもたちに求められる資質・能力を育てる上で大切な教科であると言えます。

- ① 問題解決の見通しをもって必要な情報を集めること
- ② 集めた情報を丁寧に読みとること
- ③ 情報を整理して分かったことや考えたことをまとめること